

第2次宇陀市総合計画 概要版



みんなが生きがいをもって暮らせる魅力ある健幸なまち 宇陀市
～輝く歴史と文化の息づくまち～

平成31年3月

はじめに

▶ みんなが生きがいをもって暮らせる魅力ある健幸なまち 宇陀市

～輝く歴史と文化の息づくまち～ をめざして



今日、地方自治体におきましては、地方分権が進む一方、急速な少子高齢化の進行や人口減少時代の到来という歴史的転換期に直面しています。宇陀市を取り巻く環境も、合併から13年が経過して大きく変化しています。「宇陀市総合計画」(2008年)を策定したときの予想よりも少子高齢化は速まっており、今後、人口減少もより一層進むことが予想されます。また、ライフスタイルの多様化等により若い方々が市外に出て行かれたり、老老介護、空き家等の問題も起こっています。

これらの問題の解決には、行政と市民が力を合わせて取り組んでいく必要があります。そのために宇陀市民としての精神性を示す宇陀市民憲章を基本理念とするまちづくりの方向性について、市民と行政の共通した意識を醸成してまいります。

本計画は、本市の12年先を見据え、人口減少や少子高齢化を乗り越え、夢と希望にあふれ、明るく活力あるまちを目指すための方向性を示す重要な計画です。そのため、まちづくりの主役となる市民の皆さまがいつまでも健康で活躍でき、笑顔あふれ、人も自然も産業も輝くまちを創造し、本市の豊かな自然、歴史、文化を次世代に引き継ぐという強い思いを込め、「みんなが生きがいをもって暮らせる魅力ある健幸なまち 宇陀市 ～輝く歴史と文化の息づくまち～」という将来像を設けました。それを基に、「健幸なまち」「暮らしやすいまち」「活力あるまち」「生涯輝くまち」「自然豊かなまち」「地域力を発揮するまち」という6つの目指すまちの姿の実現に向けて、それぞれの施策の方向性を取りまとめております。

私たちのまちには、豊かな自然、先人たちが大切に守り育んできた歴史・文化・伝統など多彩な魅力が溢れ、豊富な地域資源に恵まれています。この地域資源を最大限に活かしながら、市民の皆さまとともに、これからの新しいまちづくりを進めてまいりる所存ですので、計画の実現に向け、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、この計画の策定にあたってご審議頂きました総合計画審議会委員各位をはじめ、市民アンケートや宇陀市みらい会議などにご協力を賜りました市民の皆さまに対し、心よりお礼を申し上げます。

宇陀市長 **高見省次**

第2次宇陀市総合計画について

▶ 第2次宇陀市総合計画策定の趣旨

第1次宇陀市総合計画の策定(2008年3月)から本市を取り巻く社会・経済情勢は大きく変化しました。また、地方分権改革による市町村の主体性や自主性が求められています。

本市では、総合的かつ計画的な行政運営の指針であり、かつ市民にまちづくりの長期的な展望を示すものが必要であると考え、第2次宇陀市総合計画(以下、本計画)を策定しました。

▶ 計画の構成と期間

(1) 計画の構成

本計画は、基本構想及び基本計画から構成されています。

基本構想は、まちづくりの前提となる「基本理念」と12年間で目指すべき宇陀市の「将来像」、「目指すまちの姿」の実現に向けた「施策の方向性」で構成されています。

基本計画は、「施策の方向性」に基づき必要な「施策」で構成されています。基本計画では毎年施策の進捗状況进行评估し、4年毎に効果検証を実施して見直しを図っていきます。

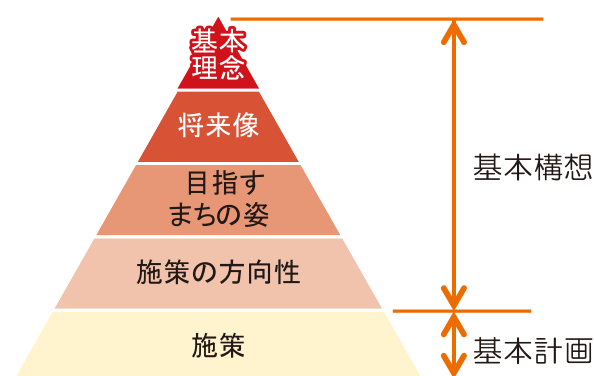


図 第2次宇陀市総合計画の構成

(2) 計画の期間

第1次宇陀市総合計画では、基本構想を2008年から2017年までの10年間、基本計画を前期・後期それぞれ5年として実施してきました。

しかし、基本構想10年、基本計画5年の周期は市長任期4年とは連動しておらず、策定期間も市長選挙の時期と異なるため、市長の政策方針を総合計画に即時的に反映しづらい等の問題がありました。

そこで、本計画については、市長の政策方針を総合計画に反映しやすくするために、基本構想の計画期間を2018年度から2029年度の12年間とするとともに、基本計画は、市長選挙後に合わせて前期年(2018～2021年度)・中期年(2022～2025年度)・後期年(2026～2029年度)とし、4年毎の実施としました。

| | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年 | 2026年 | 2027年 | 2028年 | 2029年 |
|------|--------|-------------|-------|-------|--------|-------------|-------|-------|--------|-------------|-------|-------|
| 市長任期 | 市長任期4年 | | | | 市長任期4年 | | | | 市長任期4年 | | | |
| 選挙時期 | 選挙 | ↑ ↓ 市長任期と連動 | | | 選挙 | ↑ ↓ 市長任期と連動 | | | 選挙 | ↑ ↓ 市長任期と連動 | | |
| 改正年度 | 改訂 | | | | 見直し | | | | 見直し | | | |
| 計画期間 | 前期年 | | | | 中期年 | | | | 後期年 | | | |

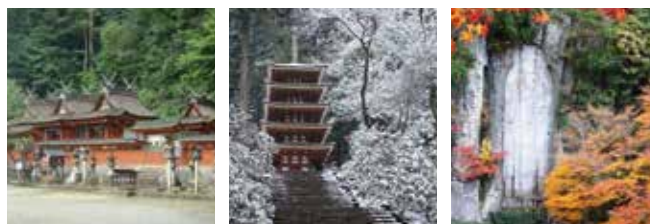
図 第2次宇陀市総合計画の計画期間と市長任期等

宇陀市の現状

▶ 豊かな歴史や自然

宇陀の地は、古くから「古事記」や「日本書紀」等の歴史書の中にも記載があり、神武伝承の舞台としても知られています。市内には、指定文化財が104点(2018年4月現在)あり、歴史や文化の豊かさをうかがい知ることができます。

また、本市は山地に囲まれた豊かな自然環境があり、スズランの自生の南限地やカザグルマ草の自生地もあります。さらに、市内の河川にはオオサンショウウオも生息し、国の天然記念物にも恵まれています。



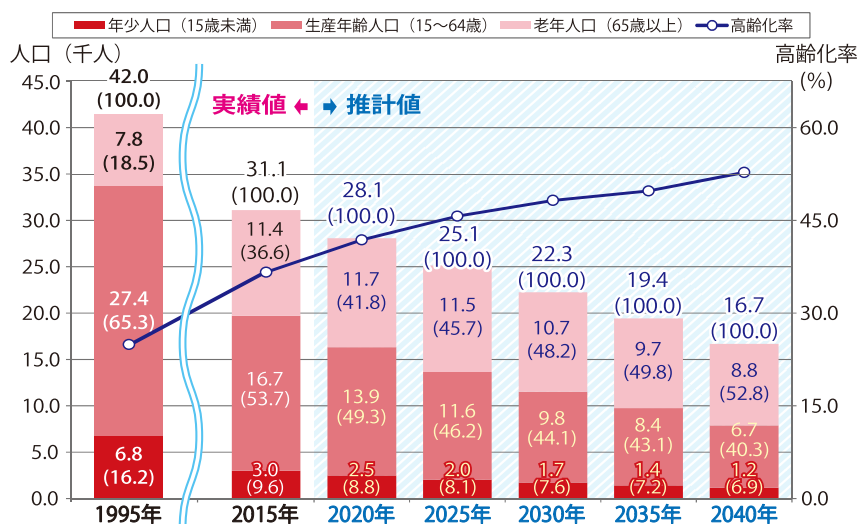
山からの風景(上)宇陀水分神社(左)室生寺五重塔(中)大野寺石仏(右)

▶ 少子高齢化・人口減少の進行

他の多くの自治体と同じく、本市でも少子高齢化・人口減少が進行しています。

本市の人口は、1995年の約4.2万人をピークに減少が続き、2015年には約3.1万人となっています。また、高齢化率は年々増加し、2015年には約36.6%となっています。

今後の将来展望をみると、2025年には約2.5万人、2040年には約1.7万人になることが予想されています。



資料：2015年までは国勢調査、2020年以降は国立社会保障人口問題研究所推計値(2018年)人口の推移と将来推計

宇陀市が抱える課題

少子高齢化・人口減少をはじめとした様々な問題に対して、本市は主に以下の9つの課題を抱えています。本計画において、今後12年間で各種取組みを進め、これらの課題の解決を目指します。

- 人口減少の抑制
- 関係人口の創出
- 市民の「健幸」の実現
- 産業の振興
- 価値観の多様化への対応
- 安全・安心の確立
- 自然環境の維持・保全
- 市民と行政の協働
- 行財政の効率化

基本構想

宇陀市民憲章を「基本理念」として、今後12年間で本市が目指す将来像は『みんなが生きがいをもって暮らせる魅力ある健幸なまち 宇陀市 ~輝く歴史と文化の息づくまち~』としました。この将来像をより具体的にした、6つの「目指すまちの姿」に向かって、各種取組みを進めていきます。

基本理念

宇陀市は、記紀万葉の風が高原の緑をわたる、輝く歴史と豊かな文化の息づくまちです。かけがえのない生命であるわたくし達は、宇陀市民としての誇りと責任を胸に、一人ひとりが未来への限りない発展を願い、この憲章を定めます。

- 一、すこやかな心とからだを保ち、だれもが生きがいを見いだせるまちを育てます。
- 一、共に支え合い、互いの尊厳を大切にする、あたたかいまちを創ります。
- 一、人と自然が共生しひびき合う、やすらぎに満ちたまちを守ります。
- 一、歴史や先人の英知に学び、文化と産業の伸展する、活力あるまちを目ざします。



基本計画 1. 健幸なまち

市民の誰もが身体面の健康だけでなく、生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送れるまち「健幸都市“ウェルネスシティ宇陀市”」の実現を目指します。また、「自助」「互助」「共助」「公助」の理念を浸透させ、地域の特性を活かして「健幸」を実現するためのまちづくりを推進します。

施策

1 「健幸都市 “ウェルネスシティ宇陀市”」の実現

- 健康づくり活動の支援
- 保健事業の充実
- 介護予防の推進



健康づくり活動の一環としてのウォーキング

2 みんなの幸せを支える福祉環境づくり

- 介護・福祉サービスの充実
- 障がい者の生活支援
- 困難を抱えた家庭への自立支援
- 地域福祉の環境づくり

3 結婚・出産・子育て世代への魅力ある支援の充実

- 仕事と子育ての両立支援の充実
- 子育て支援の充実
- 母子保健事業の充実

4 地域医療体制の充実

- 医療体制の充実
- 地域医療と福祉の連携の推進
- 国民健康保険・福祉医療費助成の推進

◆ “健幸なまち”の評価指標とその考え方

| 評価指標 | 現状値 | 目標値(2029年) | 評価指標の考え方等 |
|------------------|------------------------|-----------------------------|---|
| 健康寿命※ | 男性:82.45歳 (2015年) | 84歳 | 【健康寿命の延伸】 市民一人ひとりが健康を維持することで、健康寿命が向上すると考えられます。 |
| | 女性:84.80歳 (2015年) | 86歳 | |
| 1人あたりの国民健康保険の医療費 | 363,735円/人 (2017年度) | 全国平均を下回る 又は 奈良県平均を下回る | 【1人あたりの年間医療費の削減】 市民一人ひとりが健康を維持することで、長期の入院や治療が減少し、年間医療費を抑制できると考えられます。 |
| 15歳未満人口比率 | 9.14% (2017年度) | 10.0% | 【子どもの占める割合の向上】 保健・医療・福祉等の連携・充実や地域の協働によるまちづくりによって、子どもを安心して産み、育てられる環境を整えることで、15歳未満の人口比率が向上すると考えられます。 |

※健康寿命とは「日常的に介護を必要とせず、健康で自立した生活ができる期間」のことをいいます。

奈良県では、65歳以降の平均余命から平均要介護期間を差し引いて、次の式により健康寿命(65歳時の平均自立期間)を算出していますが、65歳を加えた数字で表しています。

$$\text{健康寿命} = \text{平均余命} - \text{要介護期間 要介護2以上}$$

基本計画 2.暮らしやすいまち

本市の魅力向上のために、誰もが住み良いまちづくりや移住・定住を促進します。また、公共交通や道路交通網、上下水道や情報通信基盤などの公共インフラの持続的な整備・維持・活用とともに、災害に備えた安全・安心な暮らしの実現を目指します。

施策

1 みんなが住み良いまちづくりの実現

- 良好な景観や環境に配慮したまちの形成
- 交通安全関連の整備
- 防犯体制と消費者保護の強化

2 移住・定住の促進強化

- 土地利用の推進
- 定住につながる環境づくり
- U・I・J ターンの促進

3 公共インフラの持続的な整備・維持・活用

- 安全で快適な道路環境の維持・整備
- 地域公共交通の充実
- 安全・安心な上下水道の維持・整備
- 地域情報化の推進

4 災害に備えた安全・安心な暮らしの実現

- 災害の未然防止対策の推進
- 防災・消防体制の確立



宇陀松山地区のまちなみ



空き家を活用した店舗

◆ “暮らしやすいまち”の評価指標とその考え方

| 評価指標 | 現状値 | 目標値(2029年) | 評価指標の考え方等 |
|--------------------------|----------------------|------------|---|
| 住みやすさ ランキング (県内の市) | 11位/県内12市 (2016年) | 奈良県1位 | 【まちの住みやすさの向上】 暮らしやすいまちづくりを進めることで、県内他市と比較して「住みやすさ」が向上すると考えられます。 |
| 人口の社会動態 (転入者数-転出者数) | -205人 (2017年度) | -150人 | 【社会増減数(転入者数-転出者数)の改善】 まちの住みやすさが向上することによって、市外への転出者数が減少し、市外からの移住が促進されることで、社会動態の減少数が小さくなると考えられます。 |

基本計画 3. 活力あるまち

地域資源を確実に未来へ継承していくための保全と多様な活用の方法を検討し、豊かで活力と個性がある地域産業の構築と持続可能な地域経済の発展に努めます。さらに、インバウンドの増加や多様化する観光ニーズを踏まえて観光戦略を推進し、交流人口の増加を目指します。

施策

① 地域資源の保全及び産業と連携した活用

- 文化財の保護・活用
- 歴史・文化資源の整備と充実
- 宇陀市産物の利用促進

② 地域の産業の発展を担う次世代の人材の確保や育成

- 雇用の創出
- イノベーションの創出

③ 基幹産業である農林業の再生・活性化

- 農業生産基盤の整備と農地の保全
- 農林業経営・生産・流通体制の強化
- 付加価値の高い農産物づくりの推進
- 森林の保全と多面的利用の促進

④ 商工業の再生・活性化

- 商店街の活性化支援
- 地元事業所活動の促進・支援
- 新たな産業の展開

⑤ 観光戦略の推進

- 観光基盤の維持・整備
- 地域資源を活かした観光・交流の創出
- 観光誘客の活性化



菟田野で生産されている毛皮革製品

◆ “活力あるまち” の評価指標とその考え方

| 評価指標 | 現状値 | 目標値(2029年) | 評価指標の考え方等 |
|----------------|---------------------|------------|--|
| 地域資源を活かした商品開発数 | 37件 (2017年) | 60件 | 【地域資源を活かした産業の活性化】 地域の特性を活かした産業振興等により、地域資源を活かした商品(食品、農林産物、観光商品等)の開発が進展すると考えられます。 |
| 観光入込客数 | 1,401千人 (2017年度) | 2,000千人 | 【観光の活性化】 市内における経済活動の活発化を目指して、地域資源を活用した観光戦略を推進することで、観光入込客数が増加すると考えられます。 |

基本計画 4.生涯輝くまち

誰もが自分らしく生涯を通じて輝き、よこびや生きがいをもって暮らせることは、本市が目指す将来像の実現に向けた基本です。地域の特性を活かして、誰もが学び、働き、活動できる地域づくりを進めるとともに、様々な活動に取り組める文化的環境の整備に努めます。

施策

① 人権を大切に 共生のまちづくりの実現

- 人権尊重の社会づくり
- 男女共同参画の推進
- 家庭と仕事・地域活動の
バランスがとれた生活への支援

② 子どもたちの教育環境の充実

- 学校教育内容の充実
- 学校の教育環境の充実

③ 多様な学びの場の整備・充実

- 生涯学習環境の充実
- 地域の教育力の醸成

④ スポーツ・芸術・文化の振興

- スポーツ活動の支援・充実
- 芸術・文化環境の充実



講座やイベントの実施の様子

駅伝チャレンジ大会の実施の様子

◆ “生涯輝くまち”の評価指標とその考え方

| 評価指標 | 現状値 | 目標値(2029年) | 評価指標の考え方等 |
|---------------------------|-----------------------|------------|--|
| 自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合 | 小学校:71.4% (2017年度) | 85.0% | 【自尊感情の向上】 教育の質がさらに向上することにより、自尊感情の高い子どもが増加すると考えられます。 |
| | 中学校:69.7% (2017年度) | 85.0% | |
| 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合 | 小学校:63.9% (2017年度) | 75.0% | 【郷土に愛情を持つ子どもの増加】 子どもたちの教育環境の整備や地域における教育力を向上させることで、郷土に愛情を持った子どもが育ち、地域の行事に参加する児童生徒が増加すると考えられます。 |
| | 中学校:35.7% (2017年度) | 55.0% | |
| 市内主要施設※ 年間利用者数 | 187,927人 (2017年度) | 188,000人 | 【スポーツ・芸術・文化への関心の向上】 スポーツ活動の充実・支援や芸術文化環境の充実を推進することで、市内施設の利用者数の維持・向上につながると考えられます。 |

※市内主要施設は、市民を中心に利用のある大規模施設として、文化会館・温水プール・公民館4館・ふれあい交流ドーム・図書館を設定

基本計画 5.自然豊かなまち

豊かな自然や美しい田園風景と調和したまちづくりは本市の魅力の一つです。環境問題への対処や本市の魅力向上のため、循環型社会への取組運動等、環境保護を地域づくりに活かしながら自然と共生した、持続可能で快適なまちを目指します。

施策

1 豊かな自然環境の保全・活用

- 自然環境の保全・活用
- 環境を活かした持続的発展

2 生活環境の整備・充実

- ごみの適正処理の推進
- 生活衛生環境の向上
- 火葬場等の整備

3 公園・緑地の整備・活用

- 公園・緑地の維持・管理
- 新たな公園・緑地空間の整備



市内の特色ある公園の例



本市の貴重な動植物 (左：オオサンショウウオ 中：カザグルマ 右：スズラン)

◆ “自然豊かなまち” の評価指標とその考え方

| 評価指標 | 現状値 | 目標値(2029年) | 評価指標の考え方等 |
|--------------------------|---------------------|------------|--|
| 宇陀川のBOD (高倉橋観測所) ※ | 0.7mg/l (2015年) | 0.6mg/l | 【市内の河川の水質の維持・改善】 自然環境を保全する取組みによって、宇陀川の美しい環境の維持及び更なる美化につながると考えられます。 |
| 市民1人あたりの ゴミ排出量 | 0.27t/年 (2017年度) | 0.25t/年 | 【市民1人あたりのゴミ排出量の削減】 循環型社会の実現に向けた取組みや自然環境を保全・活用する取組みの推進が、市民の方々が排出するゴミの削減につながると考えられます。 |

※BOD(Biochemical Oxygen Demand)は生物化学的酸素要求量といって、最も一般的な水質指標のひとつです。水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したものであり、一般に、BODの値が大きいほど、その水質は悪いと言えます。

基本計画 6. 地域力を発揮するまち

多様なニーズや高度な課題に対して、行政だけで取り組むことは難しく、地域が一体となることが重要です。本市に住むみんなで自分たちのまちについて考え、取り組む体制を整備して住民自治の確立を図り、地域力を最大限に発揮できるまちを目指します。

施策

1 市民と行政の協働のまちづくり

- 積極的な情報発信
- 市民の協働と参画の推進

2 健全な行政運営の推進

- 行政サービスの向上
- 効率的な業務運営体制の構築
- 健全な財政運営

3 広域行政の推進

- 広域行政の推進

4 地域力の再生・強化

- 地域力の向上・強化
- 市民活動の支援



「うだちゃん11」



まちづくり協議会全体の懇談会



議会中継の様子

◆ “地域力を発揮するまち” の評価指標とその考え方

| 評価指標 | 現状値 | 目標値(2029年) | 評価指標の考え方等 |
|-----------------------|--------------------|------------|--|
| まちづくり協議会による取組件数 | 245件 (2017年度) | 300件 | 【地域が主体となったまちの活性化】 市民と行政の協働のまちづくりや地域力の再生・強化に向けた取組みを進めることで、まちづくり協議会の主体的な取組みが増加すると考えられます。 |
| 市やまちづくり協議会のSNSのフォロワー数 | 1,044件 (2017年度) | 10,000件 | 【情報共有の促進】 市等が積極的に情報発信や市民との情報共有を行うことによって、SNSのフォロワー数が増加することが考えられます。 |
| 経常収支比率 | 99.3% (2017年度) | 95.0% | 【経常収支比率(財政の弾力性)の改善】 市民と行政が適切な役割分担のもとでまちづくりを進めることによって、行政の財務負担の軽減につながり、経常収支比率の改善につながると考えられます。 |

大好きなまち宇陀市

市内の小中学生から

- A** 「わたしが好きな宇陀市の風景」
- B** 「こうなったらいいな、宇陀市の未来」

というテーマで絵画作品を募集しました。



A 鴻池美伶さん(小5)
「おばあちゃん家から見える夕日」



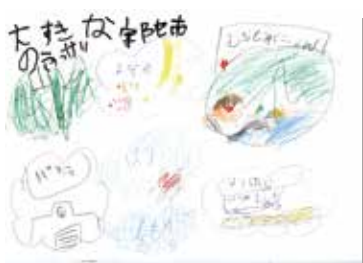
A 間井谷優花さん(小1)
「神社」



A 竹野伶香さん(小3)
「墨坂社」



A 前山嘉生さん(小5)
「わたしが好きな宇陀市の風景」



A 城本初陽さん(小1)
「大すきな宇陀市のふうけい」



A 山本玲誠さん(小3)
「スカイランタン」



B 太田一翔さん(小5)
「自然あふれる宇陀市」



A 西浦大智さん(小1)
「ぼくの町 ぼくの車」



A 栗本明さん(小5)
「きれいな花火とランタン」



A 出水夏奈さん(小6)
「私から見た街」



B 綿谷龍之介さん(小1)
「みらいのあかるいはいばらえき」



A 下山奏来さん(小5)
「山から見える虹」



A 森岡汐帆さん(中1)
「宇陀市のお宝」



A 梶谷友哉さん(小2)
「榛原花火大会」



A 岡本直士さん(小5)
「虹」



A 山本真由さん(中3)
「夏にすずめる神社」

※()は募集時の学年となります。